

## 特別展 「人体」 神秘への挑戦

国立科学博物館（東京・上野公園） 2018.03.13～06.17



本特別展のテーマは、最も身近で最も奥深い「人体の世界」を探访する企画での開催である。

先人たちのこれまでの努力に加え、歴史と功績を振り返りながら、「人体の構造と機能」を解説するとともに、それが最先端の研究でどのように変わりつつあるのかを紹介している。

～ 汝、自身を知る。それは、人類が挑み続ける永遠の謎。～



解剖手稿「頭部断面」



「ファブリカ」初版本



女性の頭部・胴体模型

ルネサンスの巨匠「レオナルド・ダ・ヴィンチ」は、人体を描くための理解を求めて人体解剖を行い、多くの「人体解剖図」を遺したことで名高く、「解剖手稿」からは自ら人体の構造を説明することの考えを巡らした軌跡が伺える。

16世紀の「アンドレアス・ヴェサリウス」は、自ら正確に人体解剖を行った革命的な初版書籍【解剖学書・図譜・ファブリカ】(1543年)が展示されている。

精巧な復元の姿「ワックスモデル」は、詳細な解剖技術と精緻な造形技術が作り上げた精密な芸術品ともいえるものである。

顕微鏡の発明は、ミクロの世界を拡大して肉眼では見えなかったものを観察・研究することを可能にしたもので、最初期の1mm レンズ単式顕微鏡や最先端の顕微鏡で捉えた細胞の8K超高精細映像などの研究成果が展示されている。